

第2回 熊本市自治推進委員会会議録概要

日 時：平成26年8月27日（水） 午前10時～12時

会 場：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

出席者：明石委員長、田中副委員長、緒方委員、越地委員、篠塚委員、毎熊委員
毛利委員、安永委員、遊佐委員、吉村委員

事務局	<p>1 開 会</p> <p>ただ今から、第2回「熊本市自治推進委員会」を開会いたします。</p> <p>まず初めに、前回ご欠席でした委員のご紹介をいたします。</p> <p>緒方洋子（おがた ようこ）委員です。それでは、緒方委員より自己紹介をいただきたいと思います。</p>
緒方委員	<p>緒方と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。</p> <p>平成18年にNPO法人チェンジライフ熊本を立ち上げまして、キャリア推進などの人づくり活動や、「早寝早起き朝ごはん」に象徴されます子どもの生活リズム向上など、様々な活動を行っています。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、委員会を進めさせていただきます。</p> <p>お手元に第1回の委員会でお示しました、「自治推進委員会の検証スケジュール」を配布させていただいていますが、本日の委員会では、検証を進めていく上での視点を整理していただくことと、検証の対象事業の選定を行っていただく予定です。委員会は正午までの2時間程度を予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>続いて、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第2回委員会次第 ○情報共有の課題について 資料1-1 熊本市2000人市民委員会 資料1-2 ○検証の視点について (案) 資料 2 ○検証対象事業候補一覧 資料 3 ○第1回熊本市自治推進委員会会議録概要 参考資料1 ○本市の審議会等について 参考資料2-1 審議会等一覧表 参考資料2-2 ○熊本市自治推進委員会答申への対応について 参考資料3-1 平成23年度自治推進委員会からの答申個別対応表 参考資料3-2
事務局	<p>それでは、これからの進行は自治推進委員会規則第5条第1項により、明石委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
明石委員長	<p>委員の皆様、事務局の皆様、暑い中お疲れ様でございます。本日も、ご協議いただき内容が盛りだくさんでございますが、貴重なご意見をいただきますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、早速、第2回の自治推進委員会を始めたいと思います。審議に入ります前に、まず会議の成立について、事務局よりご説明をお願いします。</p>

事務局	<p>ご報告させていただきます。</p> <p>本日は、委員10名全員にご出席をいただいております。従いまして、熊本市自治推進委員会規則第5条第2項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。</p>
明石委員長	<p>2 報告事項 (第1回の協議について)</p> <p>ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、第1回の委員会の報告事項についてです。</p> <p>それでは、まず、前回の委員会の議事録について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※参考資料1「会議録概要」にて事務局より修正等の確認</p>
明石委員長	<p>ありがとうございました。修正等、何かお気づきの点はございますか。</p>
毎熊委員	<p>一箇所修正がございます。</p> <p>修正箇所につきましては、(議事に大きく影響を及ぼすものではございませんので、)後ほどお伝えいたします。</p>
明石委員長	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>特になければ、第1回の議事録につきましては、委員の皆様より、ご承認いただいたものとさせていただきます。</p> <p>(審議会等について)・(自治推進委員会答申への対応について)</p> <p>次に、第1回の委員会において委員の皆様からいろいろなご意見をいただき、その回答について事務局に整理をお願いしていました、自治推進委員会の位置付けと、第1期、第2期の自治推進委員会から出された、答申への対応について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>※参考資料2-1「本市の審議会等について」・参考資料2-2「審議会等一覧表」により事務局説明</p> <p>※参考資料3-1「熊本市自治推進委員会答申への対応について」・参考資料3-2「平成23年度自治推進委員会からの答申個別対応表」により事務局説明</p>
明石委員長	<p>ありがとうございました。事務局から、第1回の委員会で、委員の皆様からご指摘のあった2つの事項について、お答えがありました。</p> <p>一つ目は、この自治推進委員会の位置付け、二つ目はこれまでの自治推進委員会からの答申に対する市の対応についてです。</p> <p>それぞれに、ご質問等をお受けしたいと思っておりますので、まずは、一つ目の自治推進委員会の位置付けについて何かございませんでしょうか。</p>
越地委員	<p>前回、私が提案しました経緯もありますので、一言、感想を述べさせていただきます。</p> <p>非常によく理解できました。法律、条例に基づくものがあり、さらにいくつかの分類がされている。さらには、審議会等の設置等に関する指針において、類似、重複しているものは、廃止し、または統合するということまで規定されていると</p>

	<p>ということですね。</p> <p>私が前回、発言した主旨は、取り扱う内容が多少、他の委員会と似ているというイメージがあるということでした。ただし、当然ながら似ているから要らないということではありません。ここで論議しようとしていることは、多方面に渡るし、いろんな視点或いは角度から論議をしなければならないものであり、それに値する大きなテーマであると理解すれば、そういう類似は多少あると思います。そのような、いい意味での重なりがあったとしても、それは、論議を深める上での方法の一つであるという解釈ができると思います。</p> <p>いろんなところで、同じテーマでいろんな角度で論議するという解釈に立てば、決して、無駄ではないし、新しいものが生まれてくる可能性はあると思います。</p> <p>一方で敢えて大事にしないといけないものは、各団体で同じようなテーマでいろんな角度で論議があったとして、それをどう整理するか、そこからどう共通点を汲み取り、いろんな審議会において横のつながりを持って生かしていくか。それができれば、よりプラスの審議会のあり方が実現できると思います。</p> <p>先ほど、説明のあった庁内での自治推進体制に、これまで以上に活かしていただければと思います。</p>
<p>明石 委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他に、ご意見、ご質問等はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、もう一つの自治推進委員会からの答申に対する市の対応についてですが、こちらについてもご意見、ご質問等ございましたらよろしく願いいたします。</p> <p>特にございませんでしょうか。特に無いようですので、次に進みたいと思います。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 情報共有の課題について</p> <p>本日の議事であります、第3期自治推進委員会における検証について、審議を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、この委員会の大事なテーマであります、情報共有の課題についてです。</p> <p>これまで、事務局の市民協働課で行われましたアンケート調査、或いは第1期・第2期の自治推進委員会で検証し答申されました、情報共有に関する課題について、事務局よりご説明をいただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>※資料1-1「情報共有の課題について」・資料1-2「熊本市2000人市民委員会」により事務局説明</p>
<p>明石 委員長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から、ご説明のありました、情報共有の課題についての資料の内容や説明に対して、ご質問等はありませんでしょうか。また、事務局よりご説明のあった、情報共有の課題以外にも、委員の皆様が日常生活や日ごろの活動を通して感じておられる、情報共有の課題などについても、ご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、どなたからでも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。</p>

	<p style="text-align: center;">(暫く、委員会からの発言なし)</p> <p>ご意見が出にくいようですので、まずは私から、一点ご質問をさせていただきたいと思います。</p> <p>現在、合併10年検証の研究プログラムということで、熊本県から熊本県立大学が受託して、県内のあちらこちらの市町村にヒアリングをして回っています。その中で、よく出てくるのが、行政情報の発信についてです。これまでは自分達の町の広報誌があったので、10ページほどの紙面に町の情報が掲載され発信されていたのですが、合併したことによって、大きな町の一部になってしまい、情報量が質、量ともに縮小してしまい、なかなか欲しい情報が入ってこないというものです。いわば、新聞の全国紙の地方版みたいな話で、おまけみたいな話になってしまっているというご不満をたくさん聞かせていただきました。</p> <p>熊本市も植木、城南、富合と新たに市域を拡大されたのですが、その辺り、区民版の広報誌の取り扱いについて、対応やお考えがありましたらお答えいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>「市政だより」では、各区のページを区毎に設け、全市的に区の情報を発信しています。また、区単位では「区政だより」というものを発行しています。区民の自治活動など身近な区の情報をテーマとした広報誌を「市政だより」とは別に発行して、地域の詳細な情報をお知らせできるような体制をとっています。</p>
明石 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に何か、ご意見等ありませんでしょうか。</p>
緒方 委員	<p>2000人市民委員会の調査結果では少なかったのですが、これからNPOの活動が増えてくるだろうと期待しているところです。「市政だより」から情報を得ることが多いという意見は、私自身も市政だよりをよく読みますので理解できました。町内会から清掃活動などの呼びかけがありますが、年配層の参加は多いのですが若い世代の人たちが少ないので、積極的に呼びかけを行い自治会活動への取り込みを頑張っているところです。また、NPOは多くのお金をお支払いすることができません。せいぜい弁当代だけでやっているという現状です。</p> <p>自主参加する人が多い現状において、単なるボランティアとして捉えずNPOでの活動は市民参加の位置付けであるということ、我々NPOも発信していかないといけないと思いました。協働という意味をNPOでは常に考えています。私の実感としては、多くの方にNPOへの参加をいただいていると思っているところですが、このようなアンケート調査の結果からNPOの参加はまだ少ないのかと思いました。今後の考えかたとして、NPO自身も、まちづくり活動への参加の形は様々であり、多くのNPO活動は市民協働の形態の一つであるということ、を再認識したところです。</p>
毛利 委員	<p>区制に移行して、随分と経過しましたが、私たち自治協議会としては非常によかったと感じているところです。</p> <p>「区政だより」などで、細かな情報が届いてきます。それらの情報から、自治</p>

	<p>協議会では、地域に関係する情報など必要な情報を抜粋して、それを町内の掲示板に掲示するとともに、町内の回覧板とは別に、町内の全世帯や一部の世帯に回覧できる「町内だより」というものを別に作って、回覧をしているところです。これは、非常に情報の共有、伝達としては、有効な手段と感じています。</p> <p>一つ問題点があるのは、中学校区で区が分かれているところが市内に何箇所もあります。実際、私の校区も中央区と西区に別れています。例えば防災活動や防犯活動など、これまでは、情報を共有して一緒にやっていたことが、区の方針が少しずつ違うことで、ニュアンスの違いが生じていて、少しやりにくくなっていると感じているところです。</p>
吉 村 委 員	<p>2000人市民委員会の問7の質問（市の施策に関する情報について、どのような方法で情報を得ることが多いですか。）に対する回答で、「フェイスブック」と答えた方の割合が低いようです。私も、市のフェイスブックを見たことがないので。私は東区に住んでいますが、東区も稀にフェイスブックで情報を発信されているようですが、ほとんど見たことがないので、恐らく発信量が少ないのではないかと思います。</p> <p>阿蘇市が水害の後に、非常にフェイスブックでの情報の発信が上手になられたようです。災害復興の進捗状況ですとか、最近はお祭りですとか観光地ですとか、非常にお上手に発信しておられ、とても感心して見えています。</p> <p>熊本市はフェイスブックの担当の方はいらっしゃるのかという質問と、市役所職員の方から、講演会やイベントの情報発信は個人的には情報をもらっているところですが、市役所、区役所では、そのような発信の担当者という方はいらっしゃるのかということについてお尋ねです。</p>
事務局	<p>市のフェイスブックは、例えば広報課だけではなく、全庁的に各課に担当者を設置して、情報の発信ができるような仕組みになっています。市のフェイスブックもあれば、区のフェイスブックもあります。</p>
越 地 委 員	<p>まず問7の表の印象について。市政だよりがこんなに多いとは正直思いませんでした。よく健闘しているなというのが第一印象です。市政だよりについては後でまた少し言わせていただきます。市政だよりが健闘していて、ホームページは今のところ少ないですが、おそらくこれは今からでしょう。どんどん内容を充実させていけば、ここは当然伸びてくる。</p> <p>新聞がこれまた意外と多かったのですね。私はもう少し少ないと思っていました。ただこれを裏から見れば新聞で熊本市のことを知るといえるのはある意味こういうこともあると思います。新聞というのは単にお知らせだけで終わるのではなくて、課題提供というのがあります。これが今問題ですよという、そういう視点での新聞の捉え方。だから市政だよりの情報提供の仕方、新聞の情報提供の仕方は必ずしも一緒ではない。例えば批判的な内容も新聞には出てくる訳です。これは今後情報提供を考える上で、単なる連絡だけではなくて投げかけ方の情報というのも示唆しているのかなと思います。</p> <p>もうひとつ回覧板や掲示板も結構あるなと思いました。今どき掲示板というの</p>

	<p>は古い印象をうけますが、私はコミュニティーを考える上では、手法は古くてもやっぱり原点だと思います。これは仮に皆が目を向けなくなったとしてもやり続けるべきだと思います。ただ地域の看板には汚いものが多いのです。掲示板の設置がもうすでに寂れています。これは市がやることではないのかもしれませんが、改めて地域と連携しての掲示板というのは大事だと思います。町内の掲示板が非常に寂しい、ほったらかしの所がたくさんあります。対面型の情報共有のひとつの場としていかしていただきたいというのが印象です。</p> <p>私は今日の午後、水俣の市議会メンバー16人全員お集まりいただき、情報共有と情報発信のあり方という勉強会を4時間やます。そのときにいろんなことを勉強させてもらうのですが、持論としているのが、伝えると伝わるは別であるということです。例えば議会広報をずっとチェックしていくのですが、議会広報を議員の皆さんは一生懸命伝えておられます。何を伝えているかというのは自分ではわかっている。自分でわかるものだから、他人にもわかるものだと勝手に思いこみがちです。伝えると伝わるは別。これが伝わっていると思いますか？という検証はほとんどなされていない。「出しているからそういう場は作っています。読まないほうが悪いのです。」は通用しません。だから伝わるという視点が情報の場合はないと一方通行で終わるだろうと思います。</p> <p>市政だよりと区政だより。政令指定都市になり大きくなった熊本市をカバーするために区ごとに出しています。これは、私は大事だと思います。市政だより本体にも各区だよりが1ページずつありますけど、さらにそれを膨らませた形で区から出ている。ただそこまで丁寧にするのであれば、この両方の見直しが必要です。果たしてそれぞれの個性が発揮できていますか？市政だよりは75万人も対象にすると、お知らせ中心で終わってしまうのです。よその町村は話題などがいっぱい載せられるのです。20ページあるとすれば、お知らせはそんなにかから町で頑張っている人とか、話題提供をして、かなり読みやすい工夫をやるわけです。ところが熊本市はどこで何がありますというのを載せるだけで相当ページ数を割いてしまいます。これは仕方がないと思うのです。それをカバーするのが区政だよりです。であれば区のたよりはお知らせ型ではなくて、企画型、提案型、特集型、そういうものを発信していくようにして、二つのすみ分けをするということで、情報共有という点では繋がりがでてくるのではないかと思います。批判的な内容についてわざわざ書く必要はないのかもしれませんが、「こういう問題が区にありますので、一緒に考えましょう。」とか「今、市は何が足りないのです。」というようなことも白状しつつ、一緒にやっていくというのも区の便りの中では必要であると思います。単に都合のいいことばかり載っているというお知らせは時代が過ぎていきます。</p>
吉村委員	質問です。掲示板というのは各町内にあるものですか？見たことがありません。
越地委員	基本的にありますね。昔はみんな見て、有効活用していました。例えば町内夏まつりとか基本的にそこに掲示していました。

	今は廃れてですね、あまり活用されていませんね。
田中副 委員長	<p>すみません。越地先生と考え方が似ているのかなと思ったのですが、二点ほどお話ししたいと思います。</p> <p>一つは越地先生もおっしゃいましたが、情報というのはすごく便利な言葉なので、みんな情報って大事だねということは賛成できるのですが、細かく見てみるといろいろあるということですね。越地先生も仰いましたが、例えばその知識として情報を知っておかなければいけないナレッジみたいな情報もあれば、案内っていかガイダンス、いつどこで何があるかっていうのも情報ですし、あとニュースとか話題ですね。地域にいろいろ携わるニュースも情報ですし、何かするとき「どうしたらいいの？」というハウトゥも情報です。一番大事になってくるのは、「こういうことやっています。」という議会の広報であったり、広報を今調べたらパブリシティという英語出てきましたけれど、情報もいろいろな種類があります。それぞれについてどういう形であると伝わりやすいのか、伝わらないのかという検証をする場合は、そういう種類をちゃんと考えないといけないのではないかとということです。先ほどの越地先生の話だと、市政だよりと区政だよりでその役割の問題は一つあるなという風に思いました。</p> <p>もう一つは、課題というときに誰の課題かということを考えないと検証しにくいと思います。情報共有というのは、送り手と受け手がいて、その間にキャッチボールのようにインフォメーションが飛び交うことだと思うのです。送り手の課題なのか、受け手の課題なのかということ、よく考えないと、先ほどの議会広報の話しではありませんが、「送り手は情報を出しましたが、受け手は受ける気がありません。」となると、誰のためにどういう情報を出すのかということも大事ですが、一方で受け手側も受ける姿勢というのを学ばないといけません。「どこにどのような情報があるのか知っておくことは義務ですよ。」といったことも必要であるかと思います。そういう情報のキャッチボールができる、もしくは双方向で情報を発信しあうというのが大事になってくると思います。「じゃあどこにけば逆に受け手が送り手になれるのか？」ということも考えていかなければいけないのではないかとこの風に思いました。</p> <p>最後に吉村さんがおっしゃったことがすごく大事だと思っています。阿蘇のフェイスブックの情報をみると、楽しそうという実感があります。越地先生が情報の「情」の字、情けが大事だと仰いましたが、単なるインフォメーションではなく、そこに心がこもっているかどうか大事です。最近、フェイスブックで活用されて、うまいこと情報が伝えられているところは心があるというか、実感がある情報だから受け手も「なるほどね！」と思えます。そういうのが大事だと思うのです。楽しくと言うと語弊があるかもしれませんが、情のこもった情報になるということも大事です。作り方ですかね？そのように思いました。</p>
毛 利 委 員	<p>私も今お話にあったことは非常に興味をもっていたので、その通りだと思います。ずいぶん昔から情報に関することはいくつか要素があると言われていて、例えば情報の3要素は「より早い情報が必要」であるとか、あるいは「より正確な</p>

	<p>詳しい情報が必要」、少なくとも一つの情報だけではなくて、「多数多量の複数の中から選べる選択肢が必要」であるということです。それに今、田中先生が言われたように、情報が伝わっているのかどうか、それから伝わった情報が発信者の方に返ってくるシステムができているかどうか、そのようなことも最近は情報に関することとして必要だろうと言われていました。</p> <p>私たちが熊本市なり区なりの情報を区民、市民の方々に知っていただき、そして、市民の皆さんの意見が、市政、区政に反映されていく。その中のどこの役割を私達は担うことができるのかなということを考えながら、周りの自治会や自治協会の役員の人達と、「あなたはここのところで関わられるから、回覧をしっかりと回してください。」「掲示板は必ずきたら、早いうちに貼り替えてください。」、そういうことがあなたの自治の中でできる役割ですよと話しています。</p> <p>情報の共有ということを改めて考えると、大変難しいですが、とても大事なことだなと思います。</p>
<p>篠塚 委員</p>	<p>自分が子ども会に関わるようになって、欲しくなった情報が変わってきました。市政だよりをよく拝見しますが、以前は、どんなイベントがあるかなとかいうのをよく見ていましたけども、子ども会の役員をやってみると必要な欲しい情報というのは違って、例えば、子ども会全員で70人くらいいて何かイベントをしようとしたときに、何かイベントをやってくれるサービスやどういうものが利用できるかなどの情報です。或いは、子ども会役員のメンバーの中にはあまりパソコンとか上手ではない、得意でない方もいらっしゃいますので、名簿とか管理するときにそういうスキルアップをする情報などです。欲しくなる情報が変わってきたような気がします。</p> <p>そういうのを思ってアンケートを見てみると、ちょっと中のほうまで見せていただいて、問1-1と1-2で街づくりに携わった経験ときっかけの集計分析をなさっているのですが、「義務感のもとに参加した」や「いろいろな条件が重なり仕方なく引き受けた」という方が6割近く、半分以上占めておられて、私もまさにここだったと思うのですが、そういう方々が、「やってよかった」「上手くいった」とか、「こういう情報をもったら上手くいった」とか、いうようなのが必要と思います。要するに、ただまちづくりと一言で言ってもただ参加をするために必要な情報と、参画していくため、何か意思決定に関わっていくときに必要な情報っていうのは、先ほど情報の種類って仰っていましたが、少し違うのではないかという気がしています。</p> <p>それともう一つですが、まちづくりに参加する参画するというようなときに、アンケートの問3っていうのがあって、同じく集計分析なのですね。「C「地域団体の役員を経験したい」が3.6%であり、「精神的、時間的に制約される活動を避ける傾向がうかがえる。」というふうに書いてあります。このアンケートではまちづくりに参加した人が7割と意外と多かったのですが、地域で呼びかけられたゴミ拾いだとかに参加してもまちづくりだし、企画運営してもまちづくりなので、まちづくりにしてもレベルや質があるような気がします。</p>

	<p>そういうまちづくり種類とか、どんな風に整理されているかというのがあれば教えていただきたいと思います。参画する人への情報、参加するための情報とかをもし考えておられるようでしたら教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>直接的な答えになるかどうかははっきり言えませんが、例えば地域団体の町内会には、「まちづくりハンドブック」という資料を全団体にお配りしています。それにはいろんな助成制度とか、あるいは支援メニューとかそういうものをまとめておまして、地域団体にお配りして積極的な活用について促しています。</p>
明石委員長	<p>皆様方からいろいろご意見をいただきましたが、情報と一言で言っても掘り下げてみると、情報の発信側、受信側の問題、そして参加（参画）する意識を喚起するような性質の情報の問題とか、かなり状況が違うのではないかという非常に貴重なご意見をいただいたところです。</p> <p>特になかなか行政情報に関心を示さないということで、若い人の対応というのも問題になるのですが、若い人代表で安永委員は、若い人としての行政からの情報、あるいは自分たちが参加したいという時にこういう情報があったら嬉しいとか、何かそういうご意見ありましたら、ご発言いただければと思います。</p>
安永委員	<p>はい。私は中央区だよりの作成に区民編集員という立場で関わっています。大学の友達に見せると「かわいい」など、結構評判が良いです。やはりレイアウトに気を使い、写真をたくさん載せて見やすいように工夫をしているのが、大きいと思います。やはりそういった見た目とかに気を使うということも、伝わるためにどうしたらよいか考えたときに使う工夫の一つだと思います。</p> <p>あと SNS を使った配信もツイッターとかフェイスブックというものは、情報を選択します。お友達申請をしたり、フォローしたりします。</p> <p>選択してもらうためには、さっきおっしゃられていたような感情のこもった情報の提供をする必要があるかなとは思っています。</p>
毎熊委員	<p>すみません。基本的なことで、2000 人市民委員会のメンバーは自治会に入っていない方々なのか、それとも、ランダムに自治会に入っていない方々も含まれているのかをまずお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>2000 人委員会は、住所、年齢層、性別などが平均的になるようにして、1 万人くらいを対象にアンケートを実施し、アンケートへの回答などいろいろな形で市政に意見をもらうことに協力できるとおっしゃった方々を選んでいきます。その方々がどういう職業であるとか町内会の役員をされているとか、全然関係なく協力できる方々を選んでいきます。</p>
毎熊委員	<p>先ほどから出ている問 7（市の施策に関する情報について、どのような方法で情報を得ることが多いですか。）の回答で、一番多いのが広報誌、市政だよりの多いと言うのは、自治会に入っていると回覧板を目にしますし、その自治会の情報が入るのですが、そうでない方というのは自治会の情報が入らないのです。どこから情報をとるかという、市政だよりの一番になるというのは当たり前のような気が致します。</p> <p>町内の回覧板や掲示板が伸びているというのはなかなか健闘していると思いま</p>

	<p>すが、自治会に加入している方、加入していない方の仕分けがこの調査結果ではなされてないので、自治会に入っている方、入っていない方にどう情報を伝えていくかっていうのは、それぞれに考えなければいけないのではないかと考えています。</p> <p>自治会には、それぞれの校区の自治会のホームページというものがあります。こういうものが浸透していくと、自治会に入っていない多くの方々とも情報を共有できるのではないかと考えています。</p>
<p>明石 委員長</p>	<p>ありがとうございます。情報は、ニーズに合わせてきめ細かく流していく必要があるというお話かと思えます。</p> <p>先ほど申しあげましたように、今大学のほうで市町村合併10周年の検証作業であちこち回っているのですが、その中で地域の方がおっしゃった言葉を一つご紹介させていただきます。情報はいろんなチャンネルがあつて全然困らない。実は越地先生もおっしゃっていた掲示板もいろんなものを通して、とにかくきめ細かに流してくれるのがありがたい。そういうことをおっしゃっている方がおられました。確かにそうだと思います。今の時代ですから、SNSとかいろいろな新しいデジタル化した情報伝達の方法もあれば、古典的な掲示板とか、あるいは口コミで流すなど、いろんな伝わり方があると思います。いろんなチャンネルをその目的や対象者に合わせて複合的に組み合わせていく、そういうことも大事なのかなという風にヒアリング調査をする中で感じたところです。</p> <p>それでは他によろしいでしょうか。他特になければ先に進めさせていただきます。</p> <p>(2) 検証の視点について</p> <p>次の議題であります、「検証の視点について」に進みたいと思います。</p> <p>これから、検証を進めていくにあたり、委員それぞれの視点で検証していただくことになるのですが、特に注意をして見ていただく点については、委員間の認識を統一しておく必要があるかと思えます。今いろいろご意見をいただいて、ある程度の切り口が見えてきたのではないかと考えています。</p> <p>先ほど事務局からご提案いただきました情報共有の課題に照らして、事務局より検証の視点の案を作成していただいております。この事務局案をもとに、委員の皆様方がお考えになっている情報共有の課題を踏まえながら事務局案に修正を加えまして、この委員会での検証の視点として整理を行い、今回の検証における、視点として委員の皆様方への統一認識の共有を図りたいと考えておりますので、ご意見をいただければと思っております。</p> <p>それでは、まず、始めにたたき台としての検証の視点（案）について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>※資料2「検証の視点について（案）」により事務局説明</p>
<p>明石 委員長</p>	<p>ただいま事務局から、ご説明のございました検証の視点の案についての資料の内容や説明に対して、ご質問等ございましたらお願いします。最後補足がありま</p>

	<p>したが、たぶん委員の皆さんの先ほどのご議論を拝聴している限りは、市民参画に関することでしっかりと理解がされていると思いますので、そのあたりのすり合わせは十分できているものと認識しております。</p> <p>それでは先ほどからご意見をいただきまして、特に越地先生あるいは田中副委員長からもご意見いただいておりましたが、情報を伝える側と受ける側の双方の側を考えて、しかも単に情報を流すことではなく、しっかり受け止めて、そこから新しい活動につながっていくような、そういう流し方が大事なんだというご意見をいただいておりました。おおむね今ご説明をいただきました視点についてはこれまでの議論を整理していくための一つの枠組みとしては、大体こういうお話をしていたのかなという感じはする訳ですが、このあたり委員の皆様方からご意見をいただければと思います。よろしく願いをいたします。</p>
<p>田中副委員長</p>	<p>どうもありがとうございます。検証の視点については、今ご説明いただいた通りだと思います。</p> <p>ご説明の中にあつた参画のタイミングでは、企画から実施、評価の各段階でそれぞれにおいて関わりやすさであるとか、どうやったら関われるのかとか、何を目的として関わるのかとかが示されているといいと思います。</p> <p>また、私が指摘しました情報の種類の話はこの②のところ辺で、検証の部類として入れていただけたらいいのではないかと思います。</p> <p>もう一つ、行政的な検証になりますと検証の結果として、先ほどもご説明ありましたように、例えば「まちづくりハンドブックを作っています。」という話で止まってしまう。検証の始点の④の一番下にあります共感できているかというところまで検証するためには、「それではそのハンドブックは好評なのか？浸透しているのか？」というところまで、確認できるとよいかと思います。</p> <p>市民側の反応として、「好評ですよ。」とか「結構、浸透しています。」であれば、共感されているのだなとなります。そこまでで、初めて送り手と受け手の方のキャッチボールが出来ているかどうかということの検証になると思います。</p> <p>④の一番下の共感できているかというのは、結構幻想というか、送り手の片思いがあると思います。そこらへんは具体的に、例えば、「送り手側と受け手側が一緒の場で同じことについて振り返りをしたか。」など、そのくらいまで具体的にやると本当に共感できているかどうか、少なくともその成果を実感として、共有しているかという話ができるのかなと思います。</p> <p>概ねのフレームとしてはこういうことでいいですけど、ここにいる方は委員会のメンバーでもありますが、一市民でもあります。そういうところの自由に視線が変えられる皆さんに行政の立場としては、行政マンだったら「これって頑張っているよな。」、市民から見たら「これってまだまだ、逃げているかも。」というようなことをやるような視点というのを、常に意識したシートになるのではないかと思います。</p>
<p>遊佐委員</p>	<p>遊佐です。今、田中副委員長がおっしゃったことは本当に大事なことだと思いますし、同感です。先ほども討議されておりました、熊本市2000人市民委員会の</p>

	<p>アンケート結果を私もよく見せていただきまして思ったのは、受け手側がまだ温度が高くなっていないと感じました。広報誌など何気なく自分が意図しなくても入ってくるものに対して、いろんなものを読んだり見たりして、自分の中に受け入れている。自分からアクションを起こして何かを求めるっていうのが少ないような気がします。ですから送り手として、市の方、区の方はすごく熱いものを持っていらっしゃると思うのですが、それが受けてである市民に通じていない。その温度差がとても感じられる気がいたします。うまく市が出来ない部分を密接に関わっていらっしゃる区役所の方が、その温度を区民に伝えていただけたらと思っております。</p>
毛利委員	<p>これからいただいたスケジュールに沿って、いろんな事例を検証していくことになるかと思うのですが、事例によっては期間が半年だったり、一年だったり、もっと長かったりしていくのですが、その途中での検証っていうのは私たち委員としては大変責任重大のような気がしています。</p> <p>検証の視点を今お示しいただいたので、検証する時点において、そのように判断するのかというのを、委員の立場で発表すればよいのですか。</p> <p>最後まで終わって、やっと満足度とかが出るかと思うのですが、途中では事例をやっている方たちもそうだし、発信した人たちも提案した人たちもまだ十分ではないというのが多いのではないかと思います。そういうことを今、感じました。</p>
越地委員	<p>三つ早口で言います。</p> <p>情報はお知らせとか報告とか、呼びかけに留まらず、考えさせる情報、言わば参画型というのはそこからくるわけです。大げさに言うと人を揺さぶる情報と言いましょか。そういうのを是非情報の中に盛り込んで欲しいと思います。例えば「今後このようなことを計画していますが、皆さんどう思いますか。」という呼びかけあたりから始まる情報発信です。「決まりましたのでよろしくお願いします。」というのだけに終わらせないというのが一つです。</p> <p>二つ目はせっかくの情報をどう浸透させるかという、情報のパイプ、情報の流れ方の問題です。先ほど掲示板も含めて、自治会の話ができました。自治会に入っている、入っていない、これはある意味非常に差別なのです。自治会に入っていないと情報が届かないっていうのは実に寂しいことです。ただ、校区や町内によっては自治会に入っていない世帯にも、広報誌やいろいろな便りを配布しているところもあります。それは「自治会に入りませんか。」という誘い水を含めて配布します。入っていないから、一種の仕返しではないですが、罰則として配らないのは寂しい。入っていないところにも届けよう、そこから次の道が見える。要は全住民を対象にどうパイプを作るのか、流れをスムーズにしていくのか。いろんなメディアなどの手段はあるとしても、そのせっかくの手段は流れないと意味がないです。</p> <p>三つ目は、ちょっと大きな話になりますが、ここで市民参画、市民という言葉が出ています。市民というと我々は市内に住んでいる人のイメージがあります。</p>

	<p>ただ熊本市くらいに図体が大きくなりますと、生活を熊本市でという人はものすごく多いのです。その方たちが、いろいろな活動に参加して、初めて熊本市は動いているのです。そうすると、その方たちは住所が違いますから、自治会とかいうレベルでは情報が届きません。でも仕事は熊本でしている。そういう人たちにどう関わりを持ってもらうか。これはおそらく先ほど出た NPO でしたり、事業者や事業所への情報発信、パイプの流れというのを持っておかないといけない。政令市という大きな都市になってくると、意外と盲点で、住所のある人だけでは展開できません。これは非常に新たな問題で、厄介かも知れませんが、言うなれば昼間人口、この方たちを意識した情報共有のあり方、というのをご検討いただきたいと思います。</p>
<p>吉 村 委 員</p>	<p>東区のまちづくり懇話会で、半数の自治会長さんと、一年交代で皆さんにお会いすることになるのですが、今、自治会に入る方が少ないので情報が届けられないとおっしゃっています。新しい団地がどんどん建ちますが、その方々は自治会に入れない場合が多いと聞いています。マンションの建設や団地を開発される時点で、自治会と不動産業者との接点が断ち切られている状況があるそうです。ゴミステーションの管理や、外灯、あるいは清掃活動は自治会単位でやっていますが、新しい団地、新しいマンションの方にはどうしてもそれが情報として届けられない。もちろん区政だよりやそういったものは配布されているそうですが、そのジレンマをすごく感じているとおっしゃっていました。私も子ども会の役員をしていた際、今子ども会に入れない方がどんどん増えていまして、強制的に入らせるという校区もありますが、子ども会活動が今非常に希薄になっています。10 年前はいろんな行事が毎月のようにあっていましたけれども、入っていない子、入っている子の差があり、なかなかその活動も活発にならず、子ども会の情報、そして老人会と子ども会の連携というのも非常に課題になっていることを感じます。地域のどんどやも老人会と子ども会の情報共有が難しく、しばらく廃止になっていたのですが、たまたま自治会長さんのお嬢さんが子ども会の会長になられたので、どんどやが復活したということがありました。正しく情報の共有がそういうところからなされていったのですが、地域、市民参画、まちづくりで考えたときにどうしても自治会や子ども会はキーの部分だと思うのですが、そういうお話をよく聞きます。</p> <p>少し戻りますが、熊本市 2000 人市民委員会アンケート問 11（区のまちづくりを進めるにあたり、どのような分野において話し合う必要があると思いますか。）で「安全安心」・「福祉・健康」が、一番関心が高くなっています。そこで区で作っているハザードマップも昼間人口の企業さんをどう巻き込むかっていうことも勿論課題となっていて、実はその人口も多いですので、働いている若いご夫婦は昼間その地域にいないので、働きに出ている地域での活動に参加するというルーズな形での地域参画、まちづくりも非常に区役所の中でも進んでいるところです。越地先生のご意見を聞いての感想でした。</p>

<p>明石委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。それでは時間もだいぶ経過しておりますので、今、皆様方からお寄せいただいたご意見をまとめさせていただきます。</p> <p>基本的に検証の視点の枠組み、フレームは概ねこれでいいだろうというご趣旨かと思います。</p> <p>その中で、特にその④の取組への共感あるいはその伝わった情報を受け止めて、次の具体的な活動にどう繋げていくか共有をしっかりと評価できるような指標が必要ではないかということでした。ある程度、次の選定した事業に関わってくるのかもしれませんが、この取組への共感というあたりをもう少ししっかり把握できるような、そういう評価の指標のようなものも用意もするべきではないかという副委員長のご意見でございます。</p> <p>それから、越地先生と吉村さんの方から出ましたのが、これは③の参画の対象者のお話かと思います。単純に住民登録しただけではなしに、在勤、在住という言葉もありますが、熊本市にお仕事でお昼いらっしゃる皆さん方も対象になるかと思います。そういう対象者や、自治会の加入者、非加入者、こういった間の情報格差をどうしていくか？そういった問題もありますが、切り口としては③の参画の対象者の中でご議論いただけるのかなと思うところでございます。</p> <p>従いまして、この検証の視点については概ね事務局素案を枠組みとして使わせていただくということで皆様方よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜ 委 員 了 承 ＞</p> <p>はい。ありがとうございます。この素案に従って検証の方を進めていくということで、検証の視点とさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>一点だけ伺いしておきたいのですが、先ほどの検証の視点の中で、副委員長から「シート」という言葉が出てきたのですが、視点を踏まえて今から検証する事業を選んでいただいて、スケジュール的には次の委員会から、実際ヒアリングしていただいて、検証していただくこととなります。</p> <p>相手の方もありますので、我々としてはこの「シート」、こういう視点についてのシートを共通に皆さんに持っていただいて、いろいろ書き込み、それをまたこの会議の中で議論していただく、という形を考えておりますが、このシートっていうのがあった方がいいのかということをお伺いさせていただきます。</p>
<p>明石委員長</p>	<p>それは皆様方いかがでしょう。</p>
<p>田中副委員長</p>	<p>僕は先生ですので、例えば「期末試験こういうことをします」と言ってテストをします。何もしないでテストすると、「抜き打ちみたいなことやめて欲しい。」と学生は大変怒るわけです。だから授業の最初に「こういうことを学習します。成績はこういう風につけます。具体的には単元はここで、バランスよく出します。」と話をします。</p> <p>評価というものは評価する側とされる側に分かれてしまうと良くないのです</p>

	<p>が、「一緒に皆さんがやってきたことを振り返りましょう。」という話だと思うので、両方がわかりやすく、「どういうことについてご質問するので、こういう結果を元に教えてください。」という共通のフォーマットがあった方がわかりやすいのではないかと思います。</p> <p>簡単に「シート」と言いましたが、必ずしも表のような形ではなくても、項目が書いてあり、それについてお話をさせていただきますよというような、やりとりが出来るものがあった方がいいと思います。大学でもよくやるのですが、行政の方でしたら、シートのようなものに情報を埋めていく方がやりとりしやすいのではと思ったので、シートという言葉を使わせていただきましたが、形にこだわっているわけではなく、評価というものをそういうつもりでやりたいと思っているので汲んでいただければと思います。</p>
毛利委員	<p>私もシートはあった方がいいと思います。私もいろいろ経験しましたが、人事や事業の評価をする際には評価表を使用してまいりました。評価対象者にもこういう内容で評価をしますというお知らせの意味も含めて評価シートはあった方がいいと思います。</p>
吉村委員	<p>質問です。いただいている資料には検証という言葉がありますが、評価と検証はどういう違いがあるのでしょうか。資料には全て検証と書いてありますが、検証という言葉を使った方がいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的には検証していただくということになります。検証の結果が評価につながるということはあると思います。</p>
明石委員長	<p>一般的には検証のほうが上位概念です。評価はむしろ下です。細かい指標に照らして評価する。ですから評価の場合は必ず評価指標を用意します。</p> <p>田中副委員長のおっしゃったシートですが、基本的には事務局でご用意いただいた検証の視点をベースに、特記に書いてある内容を付加していくというようなイメージでよろしいでしょうか。</p>
田中副委員長	<p>はい、そのつもりです。</p>
事務局	<p>今ありましたシートについては用意する予定です。本来は本日の委員会に出して作りあげることができればよかったのですが、間に合わず、すみませんでした。</p> <p>シートについても委員の皆様にご意見をいただきたいと思っておりますので、事務局でたたき台を作成し、メール等でやり取りをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
毛利委員	<p>本委員会は公開の形で行われていますが、シートで検証したものがそのまま全部公開ということになるのでしょうか？</p>
事務局	<p>シートといいますがチェックシートのような形ですので、ヒアリングの際に書き込んでいただいてそれを元に議論をし、取りまとめたものを公開するということになります。ですので、シートを用意させていただくのは、委員の皆様がヒアリングをしやすいようにするためということと、時間があまりないので事前に</p>

	<p>検証事業について担当課にシートを作成していただき、委員の皆様を確認しておいていただいからヒアリングに入ること短時間で効率的に検証をおこなうためということです。</p>
田中副委員長	<p>検証も評価も並べてどうこうとか言いたいわけではなく、より良くしたいということが目的です。自治を推進したいということが大目的で評価が目的ではないので、検証する側もされる側も、学びながら、より良くなりましょうという意識共有ができればいいと思います。</p> <p>そこを鏡に書いていただければと思います。そのための覚書というか、項目のチェックシートを用意していただきたいと思います。</p>
明石委員長	<p>イメージとしては事務局からいただいた検証の視点をベースに、越地委員や吉村委員からありました市民、市民とはいったい何か、企業市民はどうか、という内容を付け加えていただき、田中副委員長からありました取り組みへの共感、次の行動に繋がっているかなどを、④のその下の項目として付け加えていただき作成していただければと思います。</p> <p>それから事務局からお話がありましたように、また、原案ができましたらメール等でご確認していただくということになりますのでよろしくお願ひします。それから検証のシートについては外へ出すものでなく、作業用のメモ、覚書ということでご認識をいただければと思います。視点についてはこのあたりでよろしいでしょうか。</p> <p>(3) 検証対象の事業について</p> <p>続きまして、検証対象の事業についてということで進めさせていただきたいと思ひます。</p> <p>事業の候補について事務局よりご説明いただきました後、ご意見をいただきたいと思ひます。事務局において候補としてあげていただいております事業以外に委員の皆様から特にこの事業について検証したい等ご意見ありましたらお願ひします。</p> <p>まずは事務局より検証対象事業についてご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※資料3「検証対象事業候補一覧」により事務局説明</p>
明石委員長	<p>ありがとうございます。それではただ今事務局から説明のありました検証の対象事業についてご質問、ご意見等ありましたらお願ひします。</p>
越地委員	<p>これはいくつくらいに絞り込んだらよろしいでしょうか？</p>
明石委員長	<p>できれば本日、3事業程選んでいただければと考えております。ここに示しております対象事業の中にならぬ場合は、特に対象にしたいという事業がありましたら、本日この対象事業から2事業選んで、残りは後日調整するという形で考えております。</p>

事務局	<p>今回の検証は情報共有がテーマになっておりまして、行動喚起ということが非常に難しく、例えば節水市民運動、生ごみ減量1日-20グラムも、市側が求めるものと市民が実際行動を起こす仕掛けというのが非常に難しいと思います。ですので、そういう視点からは一つお願いしたいと思っております。</p> <p>逆に区のまちづくり推進事業というのは情報共有という観点でそんなに課題があるかという非常にベターなプラクティスかなというイメージもありますので、そういう視点でもあるかなと考えております。</p>
明石 委員長	<p>本日は事業を選ぶということで、3事業に絞るのが難しければ2事業に選定していきたいと思っております。常識的に考えれば、区のまちづくり事業から1点と、その他の事業から1点というのが妥当かなと考えております。それからあと一つどうするかということになるかと思っております。</p>
吉村 委員	<p>今おっしゃった「生ごみ減量1日-20グラム」は、これは非常に地域の課題として大きなテーマですし、地域の関わるまちづくりに大きく関係していると思いますので、「生ごみ減量1日-20グラム」がいいと思います。</p> <p>それから今のタイミング的には災害時要援護者登録制度、ハザードマップや災害時のことについては非常に関心の高いところですから、こちらも是非検証してみたいと思います。</p> <p>それから、区のまちづくり推進事業からですが、東区でも朝市マップや並木道マップを作ろうという意見がでておりますが、その中で北区農産物の市というのが地域のかかわりやにぎわいという観点からも非常に興味がありますので、こちらも検証してみたいと思います。</p>
明石 委員長	<p>ありがとうございました。やや方向が見えてきました。他、ご意見ありますでしょうか。</p>
篠塚 委員	<p>節水市民運動、先程行動を喚起するという話がありましたけれども市民の方の行動を変えるには教育というものが欠かせないと思うので、熊本市は地下水でまかなわれておりますので、そういう部分も考えると節水市民運動とか教育とかいろんなことを踏まえて考えやすいのかなと思えました。</p> <p>それから区のまちづくり事業では、私も東区に住んでおりましたので地域課題検討会というのは、今はじめて拝見したのですが興味があります。</p>
越地 委員	<p>これはアンケートでもとらない限りなかなか決まらないと思います。それぞれ愛着のあるテーマもありますので、たくさんある中で全部できればそれでもいいのですが、わずか2つか3つですので、事務局としてこれを検証していただきたいというのがあればおっしゃっていただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>事務局としては節水運動と生ごみについてはいずれか1つは検証していただきたいと思っております。</p> <p>それから災害時要援護者登録制度というのは個人情報との兼ね合いもあり、なかなか伸び悩んでいるということもありますが、ただ地域の高齢者の問題というのは非常に重要な部分だとは思っております。</p>

毛 利 委 員	<p>区のまちづくり推進事業では、「中央区、校区かるた」の作成と「華ある歴史探訪ウォーキング開催事業」については非常に似通っている部分がありまして、中央区それから西区だけでなく他の区も同じような取り組みをしているところがあります。これは地域の見直し、地域を掘り起こして地域を活性化していこうということで、区の中のお互いの地域を知り合おうということですので、この2つのうちどちらかを検証してみたいと思います。</p> <p>それからその他の事業については、生ごみ減量について大変注目しております。以前、生ごみの処理方法について熊大と共同研究をしたりしていたのですが途中で挫折したりということがあったので、現在どうなっているかということも気になります。日常的なことでもあるので皆さんの共感も得られると思います。</p>
毎 熊 委 員	<p>区のまちづくり推進事業のほうからは、「中央区、校区かるた」の作成は多くの市民参加を狙うという視点に立ったときにおもしろいと思います。特に若い方の参加や、子どもの参加が見込まれるので、これをどういうふうに推進していかれるのかなと興味を持ちました。</p> <p>それからハザードマップ作りに携わりましたので、災害時要援護者登録制度については、これは緊急を要することだと思いますのでこれをぜひ検証をお願いします。</p>
田中副 委員長	<p>その他の3事業については皆さん興味を持ってらっしゃるようなので、全部検証してみたいかでしょうか。区のまちづくり推進事業についても是非お話を聞いてみたいと思います。区のまちづくり推進事業については、うまくいっている事例だと思いますので、お話を聞いてなぜうまくいっているのかをヒアリングさせていただきたいと思います。</p> <p>その他の3事業については、検証となると非常に書きづらい点も出てくると思います。こういうところこそ、本当に改善したいと思っているところと一緒に検証をやっていききたいと思います。</p> <p>数にこだわらないのであればその他の3事業を検証し、区のまちづくり推進事業についても、是非5区とも話を聞いてみたいと思います。</p>
明 石 委員長	<p>事務局の対応としては、検証の事業数についてはいかがでしょうか。3事業に限定しないといけないのか、ある程度対応可能なのか。</p>
事務局	<p>じっくり検証するというのであれば、3事業に絞らないと厳しいかと思いますが、ですが、まちづくり推進事業については話だけということであれば、検証という形ではなく気軽に話を聞いていただいて、その他の3事業については具体的に検証していくということであれば、なんとか大丈夫だと思います。</p>
明 石 委員長	<p>今、事務局より折衷案をご提案いただきましたので、その他の3事業についてはそれぞれ委員の皆様の関心が高いので、その他の3事業を評価の対象といたしまして、区のまちづくり推進事業については、詳細な評価の対象ではありませんが話を聞かせていただきたいと思います。</p> <p>私も北区の高齢者見守りということで、北区の民生員の方と一緒に各世帯へ学生と一緒に聞き取り調査等を行いました。区役所はけっこう頑張っていると思</p>

	<p>います。政令市になって、区役所が住民の一番身近な役所として頑張っている姿をアピールする場を区役所の方に提供するというにも一つ意味があると思います。</p> <p>事務局としては調整が大変かと思いますがよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>調整というより、委員会の開催を1回増やすということも含めて検討したいと思います。</p>
越地委員	<p>その他の3事業については市全体に関わることだと思うのですが、一つポイントを絞って検証しようという狙いはあると思います。ヒアリングも大事ですが、ヒアリングをしたうえで掘り下げというのが検証だと思いますので、区のまちづくり推進事業の中から事務局で一つ選んでいただいてテストケースとして見る。そのことは他にも普遍性があるので広がると思います。検証し深めるという要素は区のまちづくり推進事業の中からも一つあったほうが趣旨に沿うと思うので、事務局のほうで一つ検証対象事業を選んでいただいて検証するというのはいかがでしょうか。</p>
明石委員長	<p>そういうことになりますと、その他の事業から3事業と区のまちづくり推進事業から1事業の合計4事業を検証するということですか？</p>
越地委員	<p>事務局として4事業検証することが可能であれば。</p>
事務局	<p>検証に関しては大丈夫です。ただ、委員の皆様には開催回数を増やすことを含めて調整をさせていただくことになるかと思います。</p>
明石委員長	<p>今、越地委員よりご提案のありました、その他の事業3事業と区のまちづくり推進事業については全ての事業をヒアリングしその中から1事業を絞り込んで検証すると、あわせて4つの事業について検証を行うというご提案をいただいておりますがよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜ 委 員 了 承 ＞</p>
事務局	<p>はい、結構です。区のまちづくり推進事業については、ヒアリングをしていただいて、そこで委員の皆様を検証対象事業を選んでいただいたほうがよろしいかと思います。</p>
明石委員長	<p>その他の事業3事業と区のまちづくり推進事業から1事業を検証対象事業とさせていただきます、区のまちづくり推進事業については1度ヒアリングをしていただいたうえで、事業を決めていただく。そういう流れで進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜ 委 員 了 承 ＞</p> <p>はい、ありがとうございます。検証対象事業については当初予定の3事業から4事業になりましたがよろしくお願いします。</p>

	<p>4 第3回の委員会の開催日程について</p> <p>それでは次回の開催日程についてですが、開催回数を1回増やすということも含め後日調整という部分もでてくるかと思いますが、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>次回の第3回については10月16日午後3時からということをお願いしたいと思います。第4回以降については後日調整させていただきたいと思います。</p> <p>先程説明の中でお話させていただきました次回のヒアリング調査に使用する対象課に記入していただく調査票や評価シートにつきましては、早めに委員の皆様のお手元に届くように準備したいと思います。</p>
明石 委員長	<p>5 閉会</p> <p>はい、それでは本日活発に議論をいただきましてありがとうございました。</p> <p>おかげをもちまして、事務局には申し訳ありませんが対象事業も4事業ということで決定させていただきました。</p> <p>次回の委員会ですが10月16日は確定でございますので出席をお願いします。委員会の開催についても1回増やすという話もありましたので、それ以降については後日事務局より調整ということでよろしくをお願いします。</p>